

## 忘れられている日本の美しさと楽しさを子どもたちに伝えよう。

歴史の中に埋もれてしまい、普段は触れることのない遊びや文化、芸術がある。そこには日本人が忘れてきている知恵と心の豊かさがたっぷりと含まれている。子どもたちにその味わいを体験してもらい、後世に伝えていくために「創造する伝統 社の中の文化祭」が開催された。

あめ細工、あやつり人形、風鈴の絵付け…。

子どもたちの目がいっせいに輝きだした。

2009年9月27日、明治神宮の社は都会の中とは思えないほど、静かなたたずまいを見せていた。ただ一つ、あちこちで聞こえる子どもたちの驚嘆する声を除いては。

この日、神宮会館では財団法人 日本文化藝術財団が主催する「創造する伝統 社の中の文化祭」が開催されていた。日本の伝統技術や遊びに親子で親しんでもらおうという企画である。

文化祭というだけあって、イベントは盛りだくさんである。会場に入ると、毛氈が敷かれた縁台で抹茶や大徳寺納豆などを味わうことができる。すぐ目の前では、江戸木版画の摺り師が幾重にも幾重にも版を重ねて、絵を作る過程を見せている。子どもたちが教わりながら刷っている。重ねて刷るという工程がおもしろいようだ。

別の隅では、子どもたちが江戸風鈴の絵付けや粘土細工に没頭している。どんどん変化していく鉛細工を食い入るようにみつめる子もいる。

中央のミニステージでは江戸系あやつり人形が始まった。テレビでは知っていても、こうして人が実際に動かす様子は初めて見たらしく、集まった子どもたちは目を丸くしていた。ロビーだけでも、この賑わいである。

財団法人 日本文化藝術財団は、現代の科学文明と一線を画し、日本古来の伝統芸術や文化の中にある知恵を発掘し後世へと伝えるさまざまな運動を展開してきた。同財団の高木恵子事務局次長は次のように語る。

「伝統をそのまま伝えることが目的ではなく、そこにあ



普段あまり見ることのない鉛細工を真剣に見つめる子どもたち



巧みな技で生きているかのように動くあやつり人形に会場も盛り上がる



六国五味の香木の香を体験

る知恵のエッセンスを学び、新しいカタチで表現していくということなのです。長唄にしても、浮世絵にしても誕生した頃は前衛芸術なのですから」

こうした観点のもとで通常行われている企画は大人向けだが、その敷居を低くして、親子で楽しめるようにと企画したのが、今回のイベントなのである。

明治神宮の森を探検して、子どもたちは大はしゃぎ。

午後になるとさまざまなワークショップが始まった。同財団の前川千恵子さんの案内で「聞香(もんこう)」を見学した。

「香木をたき、その香りに包まれて森羅万象の心を聞

くのです」と講師の先生が語る。伽羅、羅国、真南蛮など6種類の香木の香りを嗅いで、辛、甘、酸、鹹、苦の5種類の味覚になぞらえるのだというが、初心者にはとてもそこまではいかない。どれもこれも普段は嗅いだことのない淡い香りなのである。ただ、その香りを嗅ぐうちに心穏やかになっていく感じがしたのは間違いのない。

会場2階の別室では切り絵の講習会が行われ、オリジナルのランプシェードを作成していた。ホールではアフリカの太鼓をたたいてみるというイベントをしている。さらに、子どもたちは明治神宮の森を探検にでかける。どんぐりなどを見つけるたびに歓声があがる。

2人の子どもを連れてきたある母親は

「初体験のことばかりで、どれも夢中になっていました。それにこんなに素晴らしい場所が都心にあることを再発見しました。来年も開催されるのであれば、また子どもも参加したいと思います」と語ってくれた。

同財団の行事はこれだけではない、今年は「四季おりおり」をテーマに日本の良さをブログで紹介するほか、年に数回、聞香や長唄三味線の会を催している。そこではさまざまな実験もある。例えば三味線である。同財団事務局の野口良太さんは

「もともと三味線はコンサートホールのような大舞台ですものではないので、まずは小さな和室を借りて

担当者より



AJOSC 様、全日遊連様のご期待に応えていきたいと思えます。

財団法人 日本文化藝術財団  
事務局次長  
高木恵子さん

今回、文化祭の開催に当たってはAJOSCの助成を頂戴し、実現することができましたことをたいへんありがたく思っております。日本には「パトロン」はおりませんが、全日遊連の皆様を含め善意のある方がたくさんおられます。その期待に応えるためにも今後も努力を重ねていきたいと考えています。

演奏をしてみる。そこには生演奏を間近で聴く迫力や本来の味わいというものがある。そのあと、今度は音響機材などの技術と組み合わせることでどうなるかを探っていく。今までなかった伝統芸術と最新技術の間の交流を深めて、新しい前衛を模索することもテーマです」と語ってくれた。

夕方近くまで、神宮会館には子どもたちの声が絶えなかった。子どもたちは、表面的なおもしろさだけでなく、自然や伝統に身を寄せることの大切さを感じ取ったに違いない。



明治神宮の森を環境について勉強しながら親子で探検。